様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００９９８

研究課題名（和文）中世エジプト環境変動期の村落社会と地方行政

研究課題名（英文）Rural Administration and Society of Medieval Egypt in the Period of Environmental Change

研究代表者
熊倉　和歌子（Kumakura, Wakako）

慶應義塾大学・経済学部（三田）・教授

研究者番号：８０６１３５７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、14世紀半ばから15世紀の環境変動期のエジプトを対象とし、環境変動と村落社会の状況、地方行政の変容との相互作用を究明した。そこで論点としたのは、第1に、村落社会における農業生産や灌漑、徴税にかかわる慣行や、それをめぐる人々の関係、第2に、環境変動期に見られた諸現象に対して、国家が見せたリアクションとしての地方行政の変化である。これらの問題に対し、オーストリア国立文書館所蔵の文書史料群から得られる村落社会の慣行や人的関係に関する情報や、叙述史料から得られる地方行政官の任官記録の解析によってとりくんだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義
気候変動やコロナ禍を経験した現代の状況と、中世温暖期から小氷期へと移り変わり、ペストが蔓延した14世紀から15世紀の状況は重なる部分が多い。そのような変化の時代の中で、地方行政や村落社会がどのように変容したかを追究することは、環境変動に対し、人間がどのようなリアクションをとってきたかを知る上で重要である。

研究成果の概要（英文）：This study investigates the interaction between environmental change, the state of village society, and the transformation of local administration in Egypt during the period of environmental change from the mid-fourteenth to the fifteenth century. The main issues discussed were, first, the practices of agricultural production, irrigation and tax collection in village society, and the relationships between people in relation to these practices and second, the changes in local administration as a reaction of the state to the various phenomena observed during the period of environmental change. These issues were addressed by analysing information on the practices and human relations of village communities from the archives of the Austrian National Archives and the records of the appointment of local administrators from the narrative sources.

研究分野：エジプト史

キーワード：環境史　マムルーク朝　オスマン朝　村落社会　アラブ部族　ウルバーン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

これまで、中世エジプトの村落社会研究は、イクター制研究の枠組みのなかで進められてきた。イクター制とは、君主が配下の軍人に、軍事奉仕の対価として徴税権（イクター）を授与する制度である。徴税権を得た軍人には、徴税地の農地の維持や管理が付託された。この制度は、10 世紀後半のイラク地方で施行され、その後、中近世をつうじてイスラーム諸王朝に採用されることとなった。とりわけ、14 世紀前半、マムルーク朝（1250–1517）統治下のエジプトとシリア地方において実施された検地により、イクター制は整備され、イクターの再分配により、マムルーク軍人（奴隷身分出身の軍人）を支配体制の中心とするマムルーク体制が確立されたとする。その体制において、イクター制は軍人支配層内部の紐帯を規定しながら、都市を拠点として村落社会を管理する機能を果たした。

研究代表者はマムルーク体制確立後のイクター制の変化と、それが村落社会にもたらした影響について関心を寄せてきた。今年 2 月には、これまでの研究成果を拙著『中世エジプトの土地制度とナイル灌漑』（東京大学出版会, 2019）にまとめた。チェルケス・マムルーク朝（1382–1517）期のエジプトを対象にしたこの研究は、文書史料を主史料にして、15 世紀以降、本来軍人に授与される徴税権が、細分化されて、軍人にかぎらないさまざまな人に分与されるようになったことを明らかにし、新たな保有者層の台頭をとらえ、新たな保有者となった人々と支配者層のあいだでとりむすばれる人的結びつきの変化を論じた。他方、そのような変化が生じていた時期に、村落社会がどのような状況におかれていたかという問題に具体的に迫るには至らなかった。しかし、農業生産が経済の基盤をなしていたエジプトにおいて、都市社会の人々の生活や軍人支配層の統治の正統性、それを背景にした王権は村落社会に支えられていたのであり、都市に拠点をおく軍人支配者層の変化のみを捉えるだけでは、当時の社会状況を理解するには不十分である。

さらに、研究代表者がとりくんできた環境史研究はこの考え方を補強する。共同研究「環境・農業生産・記録管理——文書史料に基づくエジプト環境史の構築」や個人研究「中東・北アフリカ地域における黒死病前後の環境変動と疫病流行」において、研究代表者は、14 世紀半ばから 15 世紀にかけての時代を環境変動の時代ととらえ、農業生産の変化や疫病の流行について研究をおこなってきた。たとえば、1347 年に最初の大流行が発生し、以後 15 世紀を通じて断続的に流行したペストは、農村人口の減少をもたらし、農業生産に直接的・間接的な影響を与えた。環境史研究において、研究代表者は、このような環境変動がもたらす事実を指摘したが、この事実が国家と社会においてどのような意味をもったかたという点については、議論の余地が残る。中世の社会が、今よりも自然環境の変化に脆弱で、直接的な影響を受けたことを考慮すれば、イクター制変容期を、環境変動期という枠組みのなかでとらえなおし、環境変動と村落社会の状況、さらには統治体制の変容との相互作用を検証する必要がある。

２．研究の目的

本研究では、イクター制変容期を環境変動期としてとらえ、環境変動と村落社会の状況、統治体制の変容との相互作用を究明した。この問題について、次の 2 つの論点からとりくむ。第 1 に、村落社会における農業生産や灌漑、徴税にかかわる慣行や、それをめぐる人々の関係である。先述のように、イクター制は整備されてから 1 世紀として持続することなく変化していった。その一方で、それにかかわる村落社会における諸慣行はどのような状況にあったのであろうか。研究代表者のこれまでの研究は、イクター制や灌漑システムといった構造面から村落社会を論じてきたため、そのなかでアクターとして登場する村のシャイフ（長）やアラブ部族のシャイフといったそれぞれの人間集団の代表者の存在や役割を指摘しても、村落社会における彼らの実際的な振る舞いを示すことや、彼ら以外の人々を史料から抽出することができなかった。この問題を乗り越えるために、本研究では、村落社会を、そこに生きる人たちの経済活動の場としてとらえ、そこで実践される慣行や人と人との関係に焦点を当てる。これにより、これまで取りこぼされてきた村落社会の人々に光を当て、そのような人々をも含む村落社会の叙述が可能となると考えた。

第 2 に、環境変動期に見られた諸現象に対して、国家が見せたリアクションとしての地方行政の変化について明らかにする。この問題の鍵となるのが堤防調査官という武官職である。その名が示すとおり、この職は地方に設置された堤防の維持管理のために置かれた職であり、史料上には 14 世紀前半に最初の任官記録があらわれる。しかし、14 世紀末以降、堤防調査官が県知事的な役割をも担うようになる。15 世紀になるとその状況が定着し、その役割はオスマン朝に引き継がれていった。問題は、なぜ、この時期に堤防調査官が地方行政の最重要職に押し上げられていったかであるが、研究代表者は、水利行政が重要性を増していったことと関係しているのではないかと推測している。堤防調査官が地方行政上重要な役割を担うようになる時期は、ナイルの水位が上昇し、各地で洪水が頻発していた時期と重なるためである。堤防調査官職の変化を追うことにより、村落社会の状況と、それに対峙する国家の姿勢を明らかにすることができると考える。

３．研究の方法

本研究の研究枠組みは、従来の社会経済史研究の成果を環境史の枠組みで再編しながら、環境史研究を発展させていくものである。その際に、同時代史料から上記の問題を探究し、史料上の問題の克服を試みた。

14 世紀から 15 世紀の村落社会研究が進展してこなかった最大の理由は、同時代史料が少ないことである。しかし、本研究では、エジプト中部のウシュムーナイン地方から出土したと見られるアラビア語文書群（オーストリア国立図書館所蔵）を用いて、この問題の克服を試みた。この文書群は、徴税や徴税地経営などに関する内容を含み、本研究が対象とする時代に作成されたものも多数含まれる。しかし、カタログはあるものの、これまでの研究ではほとんど用いられてこなかった。本研究は、この文書群を主史料として使った初めての本格的な研究となる。

また、新しい技術を用いて、利用されてこなかったデータの活用を試みた。上述した堤防調査官職については、年代記に記された任官記録を利用することができる。本研究では、いつ、誰が、どの職から、どの職へ異動したか／再任されたかというデータセットを作成し、それをネットワーク解析にかけ、堤防調査官職の重要性が増した時代や、堤防調査官職に任命された人のキャリアパス等を分析した。

４．研究成果

本研究はコロナ禍で開始されたが、海外渡航ができなかった期間においては、叙述史料の分析を行い、アラブ部族の系譜に関する新たな史料に向き合いながら、スルターン政権とアラブ部族の関係性の変化について探究することができた。加えて、計画していた堤防調査官の任官記録分析を行い、15 世紀初頭に地方行政が大きく変化することを突きとめた。これらの成果については、「マムルーク朝時代エジプトのアラブ部族と灌漑の維持管理」と題する報告を日本中東学会第 38 回年次大会（2022 年 5 月 15 日）で行い、現在、論文として執筆中である。

また、幸いにして最終年度にオーストリア国立図書館を訪問する計画が達成され、同図書館に所蔵される文書史料の実物を確認する機会に恵まれた。史料調査の結果、同図書館が未だに把握できないほど多数のアラビア語文書史料を収蔵しており、多くが未刊行のままであることが確認された。調査中に解読できた文書はそのような文書群のごく一部に過ぎないが、それだけでも、本研究が対象とする時代にさかのぼる重要史料が多数残存していることがわかった。とりわけ、土地徴税権保有者に対し現地差配人が書き送った書簡類は、当時の村落社会を伝えるだけでなく、徴税地経営の実態を明らかにする上でも重要である。この史料調査を踏まえつつ、研究期間中の成果をまとめて、「中世エジプト・イクター制下の土地と環境をめぐる権力関係」と題する報告を第 121 回史学会大会シンポジウム「土地所有の世界史」（2023 年 11 月 11 日、東京大学）にて行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Wakako Kumakura	４．巻 2
２．論文標題 The Tax Survey Record of the First Year of Ottoman Rule in Egypt	５．発行年 2022年
３．雑誌名 The Mamluk-Ottoman Transition: Continuity and Change in Egypt and Bilad al-Sham in the Sixteenth Century	６．最初と最後の頁 273-306
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 熊倉 和歌子、クボ リョウスケ、KUMAKURA Wakako、YOSHIMURA Takenori、KAMEYA Manabu、TESHIMA Hidenori、KUBO Ryosuke、吉村 武典、亀谷 学、手島 秀典、久保 亮輔、クマクラ ワカコ、ヨシムラ タケノリ、カメヤ マナブ、テシマ ヒデノリ	４．巻 102
２．論文標題 マムルーク朝前期・軍務庁書記官のための書記術指南：ヌワイリーの『学芸の究極の目的』「ディーワーンの書記術と財務のペン」（第2学芸・第5部・第14章）日本語訳注	５．発行年 2021年
３．雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究 (Journal of Asian and African Studies)	６．最初と最後の頁 115-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/116719	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Wakako Kumakura	４．巻 なし
２．論文標題 Water Development in the Medieval Western Delta	５．発行年 2022年
３．雑誌名 The Northern Land: Histories of the Ancient to Modern Nile Delta	６．最初と最後の頁 466-491
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Wakako Kumakura	４．巻 2
２．論文標題 The Tax Survey Record of the First Year of Ottoman Rule in Egypt	５．発行年 2022年
３．雑誌名 The Mamluk-Ottoman Transition: Continuity and Change in Egypt and Bilad al-Sham in the Sixteenth Century	６．最初と最後の頁 273-306
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wakako Kumakura	4．巻 N/A
2．論文標題 Sugar to Grains. An Agricultural Shift in Medieval Fayyum	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate	6．最初と最後の頁 203-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 熊倉和歌子
2．発表標題 中世エジプト・イクター制下の土地と環境をめぐる権力関係
3．学会等名 第121回史学会大会シンポジウム「土地所有の世界史」（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 熊倉和歌子
2．発表標題 あるホラーサーン商人の遺産関連文書にみる14世紀末の動乱
3．学会等名 シンポジウム「 中央アジア･西アジア文書研究の最前線 ――ハラム文書研究事始めによせて」
4．発表年 2023年

1．発表者名 熊倉和歌子
2．発表標題 マムルーク朝時代エジプトのアラブ部族と灌漑の維持管理
3．学会等名 日本中東学会年次大会
4．発表年 2022年

１．発表者名 熊倉和歌子
２．発表標題 中近世エジプトのアラブ部族に関する再考：水利社会、国家との関係から
３．学会等名 地中海学会研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Wakako Kumakura
２．発表標題 Watha'iq al-Haram al-Qudsi al-Sharif wa Dirasat al-Tarikh al-Mali fil-'Usur al-Wusta
３．学会等名 Tarikh al-Quds min Khilal al-Makhututat（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関